

令和4年1月20日

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 全国サミット

# 飯南高校における 3年間の取組発表 ～それぞれの変化と成長～

三重県立 飯南高等学校

# 本校における研究開発の概要

【育成する地域人材像】

## 1. 総合学科の柱である3科目の確立（最適な連動）

### 地域課題解決型キャリア教育

#### 産業社会と人間

地域魅力マップ作り  
「道の駅」で掲示・評価

↑  
地域住民・行政担当者との懇談  
街頭インタビュー

#### キャリアデザイン

過疎地域での仕事・生活を考察  
～豊かさとは？～

↑  
地元の起業家・企業人との懇談  
U&ターン者と懇談

#### いいなんゼミ

自身の提案に基づく実践  
「いいなんゼミ」発表会

↑  
地域課題研究  
(生徒自身でテーマ設定)  
仲間と対話、活動を創造

<1年生>

産業社会と人間

各教科

各教科・科目  
「グループワーク」  
スキルの向上

課外

#### 道の駅コラボプロジェクト

飯南・飯高地域の魅力発信

↑  
各系列、部活動で開発・制作した  
作品の出品・販売  
(緑茶ラテアートなど)

<2年生>

キャリアデザイン

(学校設定科目)

各系列での学習

<3年生>

いいなんゼミ

(総合的な探究)

～資質・能力～

対話力

追究力

## 2. 4系列の特色を活かした学習活動の充実

### 各系列の特色を生かした地域貢献の学び

【郷土・環境系列】松阪赤菜等、地域特産物の栽培→商品化、付加価値化を探究  
【介護福祉系列】地域の福祉課題を調査→行政・福祉施設と改善に向けた懇談、提案  
【コンピュータ系列】マーケティング手法を学習→販売計画、販売促進に活用  
【総合進学系列】大学との連携→市議会等、地域の現状・課題を学び、改善提案・発表

## 3. 探究的な学びを進める授業改善



【緑茶ラテアート】

携

NPO

入子

連携中子役

援



【校門から校舎へと続く杉並木】

地域課題解決型  
キャリア教育推進委員会(仮称)  
委員会

検証・助言



【「飯南」Tシャツ】

飯南  
いる  
すから

# 産業社会と人間（1年<sup>2</sup>単位）の変化

目的：地域を知ることによって自己の在り方生き方を深く考え、自分らしくたくましく社会で生きることを考える

地域を知る＝FWの充実

- 1学期：1回目（1日） → 魅力マップづくり
- 2学期：2回目（2日連続） → 個人発表会
- 3学期：課題解決学習（「かけ算プロジェクト」へ名称変更）



「一見不便な点は目立つが、美しい景色や村落ならではの地域の繋がりがあがる」

## 成果

- ・地域の方々の優しさに触れ、校外へ出ることの楽しさを知れた
- ・地域の魅力の再認識、素朴な疑問を持つ機会となった
- ・生徒の意外な興味・関心を引き出した

## 課題

- ・「課題を考える」ことでマイナスイメージが先行した
- ・事前学習のあり方、地域との緊密な相互連絡



# キャリアデザイン（2年<sup>1</sup>単位）の変化

目的: 社会で生きることを考える力を高め、自己の在り方や地域との関わりを認識し、自分づくりを深める

年3回  
開催

社会を知る＝地域でのインターンシップ、本気の大人講演会等



地域での 30名 (38.0%, R2)  
受入 28名 (37.3%, R3)

地域との関わり増  
コロナ禍影響なし



「やりがいを持って、楽しく地域で仕事や生活をしている大人と出会えた」

## 成果

- ・この地域でも仕事があるんだ、生活ができるんだという感覚の醸成
- ・生徒自ら計画し、企業へ連絡することで、行動に責任が持てた
- ・自分が将来何をしたいのかを見つめ直す機会に

## 課題

- ・インターンシップ内容の企業間共有
- ・1単位の中で実施できることの精査



# いいなんゼミ（3年<sub>3</sub>単位）の変化

目的: 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を考える

進路や自らの問いを探究する学び＝本校の学びの集大成

イベントも  
生徒主催



「中学校の時は地元が好きと言えなかったけど、今は自信を持って言える」

## 成果

- ・地域の伴走者と自走する生徒の出現、そして急成長へ
- ・3年間の連動した学びや経験で、校外へ飛び出すことが当たり前
- ・自走しだした生徒の活躍を見た教員の生徒観が変化

## 課題

- ・前年度からのテーマ設定(問い立て)のプロセス
- ・伴走者との関係性と教員のファシリテーション力

# 4系列の学びの変化

## 郷土・環境



- ・雑木林へ植樹活動
- ・福祉施設へ花植え交流
- ・地域花壇の共同管理

- ・英語を使った地域紹介
- ・地域軸の高大連携授業
- ・トークフォークダンス

## 総合進学



## 介護福祉



- ・福祉施設見学実習
- ・企業と看板プロジェクト
- ・専門家からの実技指導

- ・飯南高校ブランディング
- ・保護司会ポスター作成
- ・プログラミング教室指導

## コンピュータ



## 成果

- ・各系列での積極的な地域を学び場とした活動・活用が増加した
- ・地域とともに「より良いもの」にしていく学びを共有できた
- ・学びをアウトプットする機会が増加した

## 課題

- ・学校担当者が異動になった際の連携引き継ぎ(2年で約半数にあたる教員が異動)
- ・担当教員の負担集中や予算の確保(大学教授、専門家等)

# 授業改善による学びの向上

研修会

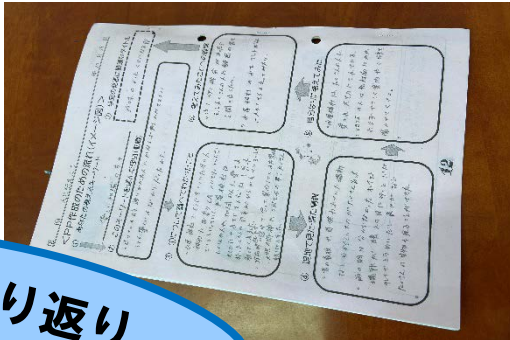
問いの設定を  
教員も体験



グループワーク



振り返り



ICT活用



成果

- ・研修会を通じて対話的な授業改善への意欲向上、体験を踏まえた実践へ
- ・振り返りを言語化し、自らの成長を感じて次への活動へと接続できた
- ・学校の境界を越えたオンライン交流で意見交換が活発化した

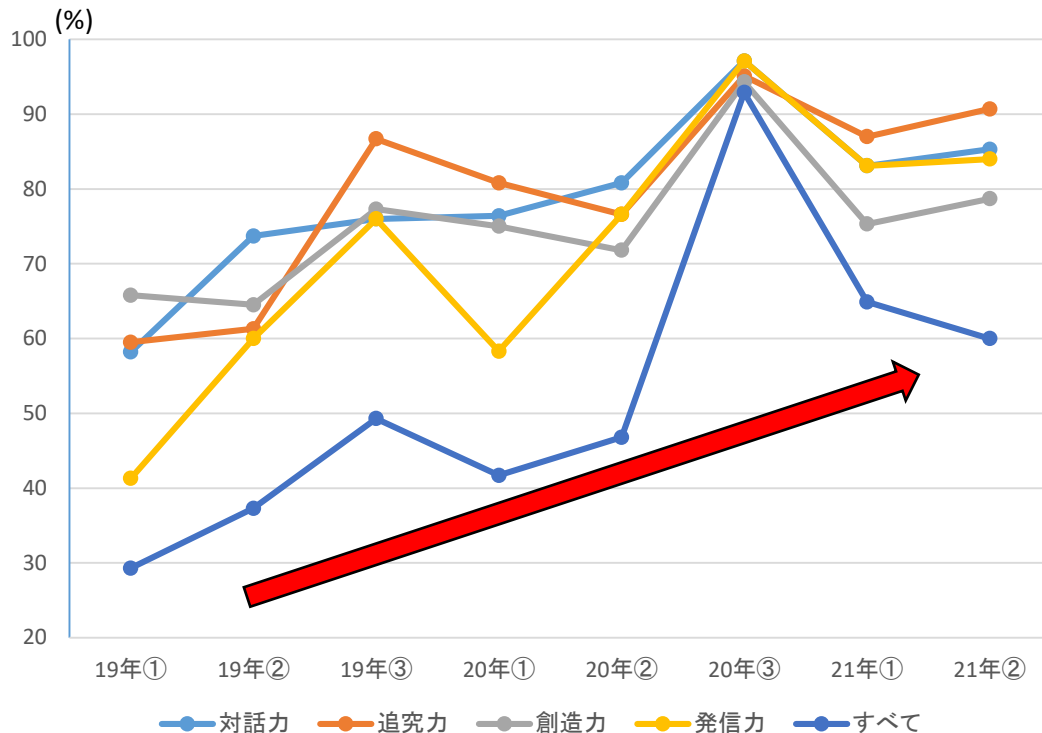
課題

- ・どの科目でも活用できるよう日頃からの授業相互見学
- ・教員のファシリテーション力の向上

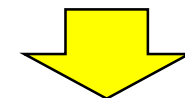
# 3年間を通じた生徒の成長

本事業の研究開発の目標 → 目指す学校像の変化

- ①変化の大きいこれからの社会で、自分らしくたくましく「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を育成する学校
- ②高校生が地域に貢献し地域を活性化させる、「地域創生の核」となる学校



本校が「生きる力」と設定した4つの力すべてにおいて、3年間かけて全体的に数値が上昇

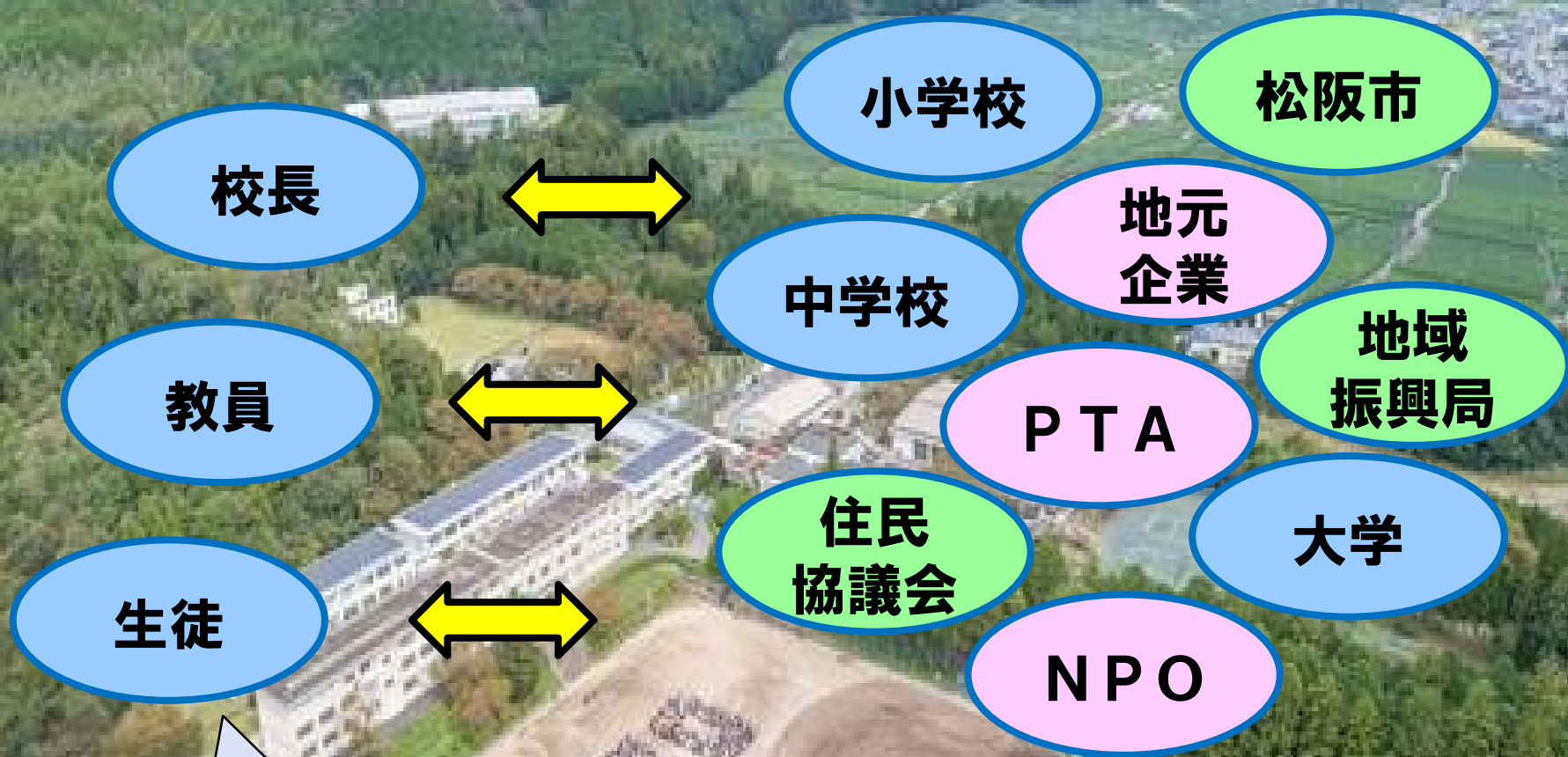


生徒全員が教育課程内で実施した地域を学び場とした学習活動によって、生徒自らが成長の実感を持ち、探究活動で校外へと自然に飛び出すことにも繋がっていった

注1) 学期ごとにアンケートを実施 注2) 「すべて」は4つの力がすべて身に付いたと回答した割合



# 共通言語で想いを語った地域との関係性



様々な本気の大人や社会との関わりで、自己の在り方・生き方に繋がりが生まれていく

教員や地域の大人も生徒の活動に共感し、成長を続けていく

# 生徒が自走した先の地域貢献



※写真は『夕刊三重』(2021年11月20日付)より引用

「私たちばかり助けられてはいけません！地域に恩返しなくては！」

「私たちの夢は、飯南高校を日本で1番の学校にすることです」